

「ボランティア養成セミナー」

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
30名	38名	38名	37 (福井18、京都8、滋賀7、愛知2、大阪1、岐阜1) 1名風邪のため欠席

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・青少年野外教育施設等でのボランティア活動の役割について理解を深める。
 - ・ボランティア活動に対する意欲を高める。
 - ・当施設でのボランティア活動に必要な知識や技能を習得する。

◆期日・期間

2013年5月3日(金)～ 2013年5月5日(土) 2泊3日

◆後援・協力団体

福井・岐阜・愛知・滋賀・京都各府県教育委員会

◆参加者分析

- ・大学のサークル単位の参加があったほか、近隣高校よりボランティアを志望する高校生や過去に当施設の事業への参加経験のある者が受講するなど、層の広がりが見られた。

◆企画のポイント

- ・講義：「青少年の理解」・実習：「体験から学ぶ」
 講師 ラナ・ポロサ・ポロサ 代表 鎌田 晴美 氏
 米原市立東草野中学校 教諭 梅本 守彦 氏
- ・講義：「ボランティアの意義」
 講師 法人ボランティア 門口 欣也 氏
- ・講義：「ボランティアの理解」
 講師 国立若狭湾青少年自然の家 職員
- ・実習：「シーカヤック」
 講師 グランストリーム 大瀬 志郎 氏
- ・講義：「施設の現状」
 講師 国立若狭湾青少年自然の家 所長 西岡 裕介
- ・実習「野外炊事」
 講師 ラナ・ポロサ・ポロサ 代表 鎌田 晴美 氏
 米原市立東草野中学校 教諭 梅本 守彦 氏
 国立若狭湾青少年自然の家 次長 山下 達也
- ・実習：「救命救急法」
 講師 若狭消防署 救急救命士
- ・実習では、当施設でのボランティア活動にて実践できる内容を工夫し、特に夏期の長期自然体験事業である「若狭湾海の自然学校」に活用できるスキルの向上が狙える内容とした。
- ・受講者が他施設で活動することも念頭に置き、野外炊事実習では導入部分に工夫を持たせた。

◆運営のポイント

- ・機構のカリキュラムがコマ単位での講義・実習の輪切りにならぬよう、また講師の指導が単発にならぬよう、期間を通じての「学びの視点」を意識してもらうことを目指した。そのため、初日に体験学習法についての理解を深めるよう講座を配置した。また、講義・実習をつなげるコーディネーター役として、鎌田晴美氏をお願いした。

◆安全管理のポイント

- ・救命救急法では、講師の尽力もあり、臨海施設である当所の特性にあった内容アレンジを加えていただき、より実践的な内容となった。
- ・シーカヤック、野外炊事では指導者を適切に配置することで、実習中の安全を図った。
- ・講座を通して「安心・安全」をベースコンセプトにおき、ボランティアとして活動する上で心身両面での「安心・安全」の配慮、目配り、心構えを伝えられるように構成を行った。

3. アンケート結果

(1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	78%	22%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	78%	22%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	65%	35%	0%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

(2) 参加者の声

- ・今まで自分の中になかった考えなどを新たに発見できました。年代も出身地もおかれている環境などが違う人たちが、同じ活動をし、考えなどを共有することができたのは、本当に貴重なことだったと思います。すごく楽しかったです！！
- ・複数のプログラムを体験することができてすごく充実した 3 日間にすることがきましたその分、吸収したことをふり返る機会、アウトプットする機会がもっとあれば、この学びを形づけることももつ

とできたんじゃないかと思いました。

- ・自分の目標が見つかりました。この企画に関わった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・自分を変えるきっかけとなりました。今後ボランティアに積極的に参加していこうと思います。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・ボランティアとして活動する上での求められる「役割」「視点」を養うことを目標に3日間のプログラムを設定した。また、すでに本施設・他施設で活躍しているボランティアからの講話を実施することで、より身近な立場からボランティア活動のイメージを掴んでもらうことができた。
- ・当施設で今後実施する予定の活動を実習プログラムとして構成したことで、参加者にとって今後の活動をイメージしやすいものとなり、早速、夏期の教育事業で活用実践ができた。
- ・学生生活の区切りに伴い、ボランティア活動が休止されるケースが多いことから、講義では社会人ボランティアとして活動されている方に講師をお願いしたが、これに触発されて卒業後も活動するケースがあった他、在学中の学生の意欲向上が見られた。

(2) 課題

- ・ボランティア養成の意図から、参加者自身に動いてもらう機会を多く設定して「互いにまなび合う」場をもうけたことは効果的に働いた面が多かったが、参加者のレディネスが多様であるため、企画意図を理解できる者もいれば、単純に自分の自然体験の楽しみだけに終始した者もあったので次年度は募集方法・内容の改善などを行って、参加者の研修成果の水準を高めていきたい。

5. 活動の様子



《講義：青少年の理解》



《実習：体験から学ぶ》



《実習：救命救急法》



《実習：シーカヤック》



《講義：施設の現状》



《実習：野外炊事》